

本願寺西山別院報

第48号

久遠

-QUON-

〒615-8107
京都市西京区川島北裏町
29番地
Tel:075-392-7939
Fax:075-394-4416
e-mail:nishiyamabetsuin@
msa.biglobe.ne.jp

新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)

南無阿弥陀仏

「われにまかせよ そのまま救う」の 弥陀のよび声
私の煩惱と仏のさとりは 本来一つゆえ
「そのまま救う」が 弥陀のよび声
ありがとう といたたい

この愚身をまかす このままで
救い取られる 自然の浄土
仏恩報謝の お念仏

これもひとえに
宗祖親鸞聖人と
法灯を伝承された 歴代宗主の
尊いお導きに よるものです

み教えを依りどころに生きる者 となり
少しずつ 執われの心を 離れます
生かされていることに 感謝して
むさぼり いかりに 流されず
穏やかな顔と 優しい言葉
喜びも 悲しみも 分かち合い
日々に 精一杯 つとめます



ご縁を喜び、お念仏とともに

親鸞聖人御誕生
50
立教開宗
800

本願寺西山別院輪番
得度習礼所・教師教修所所長
西山幼稚園園長

中原 敬恵



本願寺西山別院輪番を拝命して、丸二年が過ぎました。新型コロナウイルス感染症に振り回された二年でしたが、今年度はグッと元の生活様式に舵を切るようになるのでしょうか。マスクを外すのは楽しみでもあり、恥ずかしさもある気が致します。

世界に目を向けますと、ロシアによるウクライナ侵攻をはじめ、様々な国で武力による争いが続いております。国内でも、目を覆いたくなるような事件が頻発しているように感じます。

「日本人は平和ボケしている」と言われることがあります。これは、平和な世の中を当たり前と捉えていて、その尊さを知らないこと、そして戦争や暴力の危険性を見抜けないことを指しているようです。新聞やテレビで見聞きするニュースを、なかなか我が事として考えられない自分を反省するしかありません。それと同時に、日々和やかに過ごせている幸せを有難いと感じる心を大切にしなければなりません。

戦争や内紛をはじめ小さな争いも、その起因は様々です。しかし、どの争いにも共通しているのが、

「自分だけが一番」と思う気持ちが根本にあるという事ではないでしょうか。これが「自己中心性」、仏教でいう「我執」といわれる心の動きです。時に、宗教も争いの原因になります。しかしこれも、各宗教の教えそのものの争いではなく、他を認めることが出来ない人間同士の争いではないでしょうか。

親鸞聖人ご消息(お手紙)の中に「御報恩のため、御念仏ころにいられて申して、世のなか安穩なれ、仏法ひろまれとおほしめすべし」(親鸞聖人ご消息第二十五通)と記されています。お念仏を口にするということは、阿弥陀さまのお慈悲が私に届き、お念仏となつて頭れてくださったことです。お慈悲が届く、それは私だけが大切な存在ではなく、私もあなたも全てのいのちが尊いことを知り、そしてその私は、我執を消すことはできないけれど、阿弥陀さまにそのままお任せし、そのままお救いいただくことではないでしょうか。

親鸞聖人は、仏法に出会い、我執から離れられない我が身を知り、お互いに認め合うことのできる世界こそ、安穩な世界だとお説きくださったのです。

草花が芽吹き、桜が咲き、子どもの笑顔と笑い声がこだまする西山別院で過ごせるこの時間を、世のなか安穩なれ、仏法ひろまれと一緒に手を合わせる時間を大切に、本年も寺務に邁進させていただきたいと思えます。

また、令和六年六月には西山別院で「親鸞聖人御誕生八百五十年 立教開宗八百年」のご法要が勤まることとなりました。今までご縁をつないでくださったみなさまはもちろんのこと、初めてご縁をつないでくださる方も共に慶びあえる法要にしたいと、職員とも協議を重ねております。法要の日を楽しみにお待ちしております。